



Glass Studio Craft・U

徳間 純一

TOKUMA JUNICH

1978年 千葉県出身

2013年 柏崎市に戻り、家業の硝子工房で仕事を始める

市内上田尻にある「硝子工房クラフト・ユー」で、父と共に仕事をする、徳間純一さん。2000度のガスバーナーで耐熱ガラスを加熱しながら自在に成形・加工を行うバーナーワークというジャンルで工芸品を制作している。

制作するのはティーポット、カップ、汁次といった使い勝手の良さやファッション性を兼ね備えたキッチンアイテムを中心に、アロマペンダントや茶香炉など、工房オリジナルで、デザイン・制作・販売を行なっている。

使用するのには耐熱性と耐化学性に優れた耐熱ガラス（硼珪酸ガラス）。一般的には、理化学実験に使われる道具や機器、医療器や産業プラントに利用されている素材だ。個人の工房で、その素材を使って一つ一つ手作りでオリジナル作品を商品化しているというのは全国でも珍しいという。

純一さんが柏崎に住み始めたのは中学2年生の時。耐熱ガラスを製造するメーカーで営業をしていた父の保則さんが、実家のある柏崎で起業を決意、家族で移住したからだ。

純一さんは中学・高校を柏崎で過ご

し、大学は再び千葉県へ。卒業後はそのまま千葉県内の大手進学塾に就職。7年間の勤務の後、柏崎の実家に戻り、子供の頃から見ていた父の仕事に初めて触れることになったという。

自分のことを「手先が器用なほうではないと思っていた」という純一さんだが、家族から「せっかく家業があるのだからやってみたらどうか」といわれ、軽い気持ちで始めた、と当時を振りかえる。

父の指導を受けながらバーナーワークの技術を磨いてきたが7年経った今も「時間をかけて課題をクリアしてもすぐに新しい課題が見えてくる」と苦笑する。うまく出来たと思った商品が、翌日見るとまた新たな課題に気付かされるということの繰り返し。昨日とは違う自分を日々発見しながら、制作することのおもしろさも感じているという。

純一さんが家業に入って間もなく、父が「柏崎クラフトフェア」を立ちあげた。実行委員長としてメンバーをまとめ、イベントを主催する父をしっかりと支えてきた。

純一さんは父に倣い、毎年青森から福岡まで全国で行なわれるクラフトフェアに一人で出展し、顧客と直接対話を重ねて時代の変化やトレンド、人々の嗜好や商品ニーズを数多くリサーチしている。

コロナ禍の影響でクラフトフェアも中止が続いているが、純一さんは、いつか自分のオリジナル商品を作りたいと話し、前を向いた。



お問い合わせ

硝子工房 クラフト・ユー

柏崎市大字上田尻951-26

TEL/FAX 0257-21-4287

営業 8:00~18:00

休 土・日・祝

Mail basilica@craft-u.com

WEB craft-u.com

\*直接お越しの際はTELにてご連絡ください。

\*体験は行っておりません。ご了承ください。